

分科会Ⅱ 第3分科会

テーマ「自他ともに大切にしている児童生徒の育成～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～」

提案者	江田島市立江田島中学校	川中 健太	教諭
司会者	江田島市立大柿中学校	上村 和徳	教諭
記録者	江田島市立能美中学校	竹内 理奈	教諭
指導助言者	広島県西部教育事務所	教育指導課 宮岡 大輔	指導主事

1 はじめに

令和元年度より、江田島中学校区で文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業（メニュー2）の指定を受け、研究主題を「自他ともに大切にしている児童生徒の育成～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～」とし、江田島中学校を推進校として、切串小学校、江田島小学校との連携の促進並びに児童生徒の発達の段階に応じた実践研究を行ってきた。

令和2年度は、研究主題を継続しつつ、児童生徒の発達の段階を踏まえ、児童生徒の評価の視点を生かした道徳科の授業改善に重点を置いて取り組みを進めた。

2 研究のねらい

（1）研究の視点

令和元年度4月に行った児童生徒アンケートから、ほとんどの項目で肯定的評価の割合が90%を超える中、「自分にはよいところがある」「自分のよさが周りの人から認められている」という自己肯定感に関する項目への肯定的評価の割合は81.5%、86.6%と低かった。また、「相手のことを思いやり、親切にしている」「人の気持ちがわかる人になりたいと思う」という思いやりに関する項目への肯定的評価の割合は、94.7%と他項目の数値に比べて高いものの、実際の学校生活においては、自己中心的な考えによる友人間でのトラブルが多い、人の失敗を笑うといった課題が見られた。これらの現状と課題を踏まえ、児童生徒の「自己肯定感」「思いやりの心」を育むことを研究の中心に据えて、自他ともに大切にしている児童生徒の育成を目指した。

（2）研究仮説

発達の段階を踏まえ、小中学校で系統的に「考え、議論する」道徳科授業の展開を工夫し、それを評価、授業改善を図れば、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度が育ち、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めさせることができるであろう。

3 研究の内容

- （1）児童生徒の発達の段階を踏まえた授業づくり
- （2）評価の視点を明確にした授業づくり

4 研究の実際 ※研究内容の詳細を説明

（1）児童生徒の発達の段階を踏まえた授業づくり

本中学校区では、はじめに、研究主題である「自他ともに大切にしている児童生徒の姿」を明確にするため、道徳教育推進教師が校区教員の意見を集約し、発達の段階ごとに児童生徒の目指す姿について

整理を行った。その結果を4月の校区校長会で検討及び確認し、各校の職員に周知した。校区で設定した「自他ともに大切に作る児童生徒の姿」の実現に向け、下記のように授業改善の取り組みを進めた。さらに、その取り組みを、道徳通信を用いて、定期的に校区内で共有し、校区全体での継続的な授業改善の取り組みにつなげていった。

実践事例ア 小学校 低学年

切串小学校 第1学年 主題名：しんせつはいいきもち（内容項目 B-6 親切，思いやり）
教材名：「はしのうえのおおかみ」

■動作化，役割演技



うさぎを抱えるきつねの役割演技

■提示物の工夫



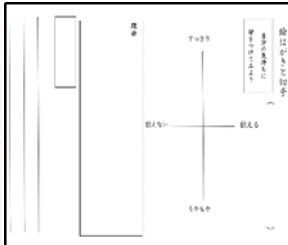
大きなくまの提示

小学校低学年の「自己中心思考」の特徴を踏まえ、まずは自分の考えを持ち、表現させる手立てとして、児童に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫を行った。自分の意見や考えをノートに書いたり、発表したりする児童の姿が見られた。

実践事例イ 小学校 中学年

江田島小学校 第4学年 主題名：友達のことを考えて（内容項目 B-9 友情，信頼）
教材名：「絵はがきと切手」

■4象限マトリクスの活用



小学校中学年の「他者思考」の特徴を踏まえ、相手の立場に立ち、物事を考えさせる手立てとして、ワークシートに4象限を準備し、児童に考えを記載させた。さらに、児童複数名の考えを黒板に書き、全体で共有することで、他の児童の考えを知ることができ、ペアでの意見交流につなげることができた。

実践事例ウ 小学校 高学年

切串小学校 第6学年 主題名：相手を理解する心（内容項目 B-11 相互理解，寛容）
教材名：「ぼくだって」

■心情円盤の活用



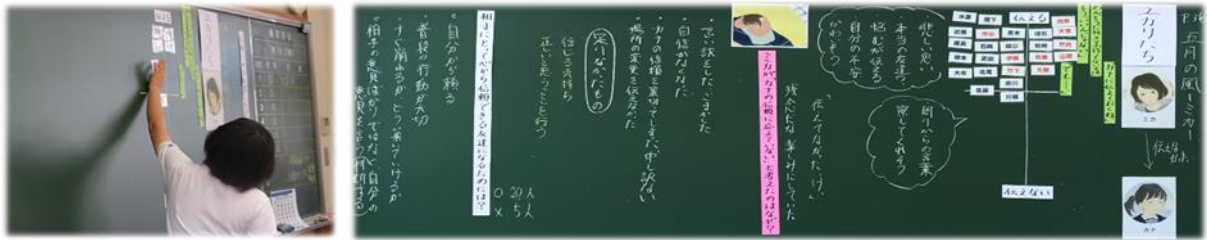
小学校高学年の「三者的思考」の特徴を踏まえ、自分にとっても相手にとってもよい考えは何かを考えさせる手立てとして、グループでの話し合い活動を行った。話し合い活動の際、心情円盤を活用することで、お互いの心情円盤を見合いながら指名し合うなど、話し合いを活発にし、児童同士の価値観の擦り合わせを行っていく点で効果的であった。

実践事例エ 中学校

江田島中学校 第2学年 主題名：本当の友達（B-8友情，信頼）教材名：「五月の風・ミカ」

中学校の「社会的思考」の特徴を踏まえ、自分の所属する集団や社会が大切にしている考えと自分の価値観を比較し、自分の考えを再認識させる手立てとして、グループや学級全体での話し合い活動を行った。話し合い活動の際、ネームプレートやホワイトボードを活用した。

■ネームプレートの活用



話し合い活動を通じて道徳的価値について考えを深めていくために、まずは児童生徒に自分の考えを持たせることが大切である。そのために「賛成・反対」など、登場人物が葛藤する場面、二者択一の考えを持たせそうな場面で、ネームプレートを活用し、生徒自身に意思表示をさせた。

■ホワイトボードの活用



生徒同士の話し合い活動を充実させ、道徳的価値について考えを深めるため、ホワイトボードの活用も有効であった。中心発問以降、道徳的価値について考えを深める発問において、活用した。まず、真ん中にキーワードを書く欄を設け、人数分、書く欄を等分する。次に、3分程度で班の生徒が同時に個人の考えを書き込み、さらに5～7分程度で個人の考えを基に、違いや共通する所について共有した。

(2) 評価の視点を明確にした授業づくり

児童生徒の道徳性の見取りについて、共通理解を進めるため、授業中の評価計画、授業参観シートの工夫を行った。授業中の評価計画については、児童生徒の学習状況を見取る視点や期待する児童生徒の発言や記述内容を想定し、作成したものである。授業参観シートについては、授業中の評価計画を組み合わせ、参観者が各視点における期待する児童生徒の発言や記述が見られたかどうかの評価（◎，○，△）、授業者へのコメントを記入できるようにした。複数の授業参観者からの評価やコメントから、授業者自身が客観的に授業の成果と課題を振り返ることで、授業の軸がぶれにくくなった。発問の意図が明確になるなど、授業改善へとつなげることができた。

■ 授業の中での見取り

・授業中の評価計画の作成

4 期待する児童生徒の姿容

Before

・感謝の気持ちをもつことは大切だと思っはいるが、伝えられない。
・自分の家族や友達、学校の先生には「ありがとう」と言っている。(感謝の対象がせまい)

授業中の評価計画

評価の視点	期待する児童生徒の発言や記述の内容
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど、これらはその他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。

After

・「ありがとう」と言う言葉には人を気持ちよくさせる力があるとなつたので、毎日使っていこうと思う。
・自分とは直接関わっていないようにみえても、生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず、感謝する気持ちをもち、感謝の言葉を伝えていきたい。(感謝の対象の広がり)

・授業参観シートの作成と活用

授業参観シート

小・中・高 () 年 通達の時間 〇月 〇日 記入者 ()

◆教科名: 人のつりあひ ◆主眼名: 賞賛のもつ不思議な力

Before

・感謝の気持ちをもつことは大切だと思っはいるが、伝えられない。
・自分の家族や友達、学校の先生には「ありがとう」と言っている。(感謝の対象がせまい)

授業中の評価計画

児童生徒を評価する観点	期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価	コメント
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。	◎、○、△	
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。		
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど、これらはその他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。		

After

・「ありがとう」という言葉には人を気持ちよくさせる力があるとなつたので、毎日使っていこうと思う。
・自分とは直接関わっていないようにみえても、生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず、感謝する気持ちをもち、感謝の言葉を伝えていきたい。(感謝の対象の広がり)

授業参観者による記録

児童の発言内容	期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価	コメント
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。	◎	自分の気持ちに思いを込めて、しっかりと感謝の気持ちを伝えている。良かった。
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。	◎	自分の気持ちを大切に、しっかりと感謝の気持ちを伝えている。良かった。
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど、これらはその他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。	◎	自分の気持ちを大切に、しっかりと感謝の気持ちを伝えている。良かった。

5 成果と課題

(1) 成果

- 児童生徒アンケートにおいて、江田島小学校、江田島中学校では、「自己肯定感」に関する全ての項目で 1.3~11.5% 数値が上昇した。また、「思いやりの心」に関する全ての項目においても、0.1~5.7% 数値が上昇した。小中学校で、児童生徒の発達の段階を踏まえた授業評価、改善の取組を進める中で、他者に自分の考えを表現できたり、自身の考えを他者から認めってもらったりする経験の積み重ねが、児童生徒の自己肯定感の向上につながり、他者の考えに共感できたり、新しい考えを知ったりする経験の積み重ねが、「思いやりの心」の醸成につながっていると考察する。
- 児童生徒アンケートにおいて、「道徳科の授業」に関する全ての項目で 3.5~16.3% 数値が上昇した。小中学校で、児童生徒の発達の段階を踏まえ、動作化や役割演技、4象限マトリクス、心情円盤、ネームプレート、ホワイトボードの活用等、指導方法の工夫を取り入れ、話し合いを通じて道徳的価値について考えを深める活動を充実させてきた結果だと考察する。
- 学習指導案に「授業中の評価計画」を明記したり、授業参観シートを作成したりすることにより、授業者と授業参観者が共通の視点で児童生徒の学習状況を見取ることができ、児童生徒の道徳性を見取りについて教職員で共通理解を進め、授業改善につなげることができた。

(2) 課題と今後に向けて

- さらに児童生徒の「自己肯定感」「思いやりの心」を育てていくためには、授業づくりだけではなく、学校の全教育活動を通して道徳教育を推進していく必要がある。そのために、各教科等と道徳科を関連付けるなど、カリキュラム・マネジメントを意識した取り組みを進めていく。